



手術センター

部署の特徴

手術センターでは、看護師や診療科医師、麻酔科医師、臨床工学技士、放射線技師等と協力しながら、0才~100才超の幅広い年齢層の患者さんに対して手術を行なっています。外科や産婦人科、泌尿器科、呼吸器外科などの手術では開腹・開胸する手術だけではなく腹腔鏡を用いた手術も行われています。最近では、ロボット手術が主流になっている術式も増えてきています。手術では体内をダイナミックに見ることができるため、解剖生理学が強くなるのが大きな強みです。様々な手術があるため、それぞれの術式に対して学習する必要があります。新しい手術に入る時には、必ず先輩看護師が手厚く指導してくれるので、安心して手術に臨むことができます。

勉強しておくの良いこと

- ・解剖生理(器械出しから始めることが多いので勉強しておくとう理解しやすいです)
- ・麻酔について(全身麻酔、脊椎麻酔、硬膜外麻酔について、麻酔薬と麻酔導入方法等)
- ・挿管について(挿管時に必要な物品、看護師の役割、介助の方法)
- ・滅菌操作(清潔不潔、滅菌物の取り扱いなど)
- ・バイタルサインについて(麻酔や手術操作、体位などに影響を受け変動します。正常を理解することで異常に気がつく事ができるので、まずは正常値を覚えましょう)
- ・器械出し看護師、外回りの看護師の役割

ここだけ見ると「覚える事や勉強することがたくさんあって大変！ やっていけるか心配・・・」と感じる人もいられるかもしれません。でも実際には働きながら、自分で経験して覚えていく事がほとんどです。分からないことがあれば遠慮せずに先輩に聞いてください。みんな優しく教えてくれます。まずは気負わずに元気に手術室に来ること。週末や休みの日の過ごし方などONとOFFの切り替え方法について考えておくことが一番いいと思います。

よく使う参考書・教科書

- ・オペナーシング
- ・「はじめての手術看護」
- ・病気が見えるシリーズ・・・それぞれの疾患に応じた科のシリーズを参考に
- ・「先輩ナースが書いた手術看護ノート」照林社 齋藤直美著
→ イラストや写真をもとに分かりやすく記載されています。
この本を利用して勉強しているスタッフが多いです。おすすめです！！

